

単位数	2単位	教科担当	金城 敦子
学年		第1学年	
使用教科書		音楽Ⅰ	教育芸術社 MOUSAⅠ

1 教科の目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かして思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに質的な価値を見出せる感性を養う。
- ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断し表現する過程を通して創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- ・中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化の理解を深める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅰ」では、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情の育成を重視したい。そのため生徒一人一人が個性を生かして音楽の幅広い活動を行い、音楽のよさや美しさを感じ取って、感性を高めていくことが重要である。また、中学校音楽科の学習の上に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力の深化や、音楽の文化的・歴史的背景などを踏まえて広く生活とのかかわりに関心をもつことなども大切となる。特に生徒が日頃から趣味として親しんでいる音楽だけの経験ではなく、授業の中で我が国及び諸外国の様々な音楽を幅広く学習することで、音楽に対する多様な観点を育成でき、主体性をもって永続的に愛好し、かかわりをもつことができるようになっていくと考える。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 独唱・斉唱から合唱まで多様な表現形態を通して、日本語の歌詞及び諸外国の歌詞など、それぞれの文化的・歴史的背景を踏まえ、曲種に応じた発声にも気をつけて、創造的に歌唱表現する。
- (2) 郷土の楽器（三線）やギターの基礎的な奏法を身につける。また、独奏や重奏や合奏など声や楽器、身体表現を様々な表現形態で学ぶ。
- (3) 表現したい音楽のイメージをもって音や音楽の質感を感じ取り、音楽の仕組みを理解しながら、音を音楽に構成していけるよう創造的に創作する。
- (4) 西洋音楽史に沿って各時代の特徴を学んだり、鑑賞と表現活動を組み合わせて舞台芸術の世界を学んだりするなど、音楽の多様性や美しさに気づき創造的に鑑賞する。
- (5) 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらが楽曲をどのように特徴づけているかについて気づき、思考・判断して創造的な表現、鑑賞を行う。

評価について

- ・学期毎に1～2回のテストを実施
- ・提出物、授業での練習過程（出席率含む）も評価の対象となります。